

廃棄物利用で発電

北陸グリーンエネルギー研

11年度までに実用化目指す



「北陸グリーンエネルギー研究会」の設立総会は2日、富山市の富大黒田講堂で開かれた。北陸の企業、大学、自治体、市民が参加し、アルミ系廃棄物を利用した発電技術の実用化を目指す。

同会の水素エネルギーシステム開発は、環境省の地球温暖化対策技術開発事業に採択さ

れており、産官学と市民団体が共同で研究を進める。

研究では、廃棄物から回収した高純度アルミで水素を発生させ、燃料電池を動かして発電する。8月には動力の一部に燃料電池を利用した乗用車の走行実験も予定している。病院の非常用電源や土木作業現場など幅広い用途が見込めるといふ。炭谷茂会長(写真)は「循環型社会の実現を目指すし、2011年度までに成果を出したい」と話した。

廃棄物で水素エネルギー

北陸3県の産官学が研究会

スナック菓子の袋などのアルミ系廃棄物から、水素エネルギーを作る技術の研究開発が、北陸3県の自治体や企業、大学、住民団体などをつくる「北陸グリーンエネルギー研究会」で進められる。環境に負担をかけないグリーンエネルギー研究の一環で、車の燃料などへの活用をめざす。

研究会は2日、富山大学(富山市五福)で設立総会が開かれた。富山からは、県や富山、高岡両市のほか、富山大や富山工業高専などが参加。

水素エネルギーの研究は2011年度までの取り組み。家庭や製薬会社などが

ら出される廃棄物からアルミを高純度で分離、回収し、カートリッジ内で反応させて水素を発生させる装置を開発する。燃料電池への活用でバスや小型車両の動力源となることが期待されている。

研究会は今後、海藻や木材などを利用したバイオエタノールの技術研究などにも取り組みたいとしている。高岡市出身で元環境事務次官の炭谷茂・同研究会長が「北陸は水や森林など自然資源が豊富で、環境への取り組みを、目に見える形でやりたい」と語った。

北日本新聞(2009年7月3日)

低炭素社会目指す

北陸3県の産学官と市民が連携して水素エネルギーを開発し、低炭素社会の実現を目指す「北陸グリーンエネルギー研究会」の設立総会が2日、富山大五福キャンパスで行われた。

県内からは富山大やトナミ運輸、不二越、県、富山市などが協力。高岡市出身の元環境事務次官、炭谷茂氏(済生会理事長)が会長を務める。

スナック菓子の袋など、アルミ系廃棄物から高純度のアルミを抽出し、水酸化ナトリウムと反応させて水素を発生させる。

今年中に、水素エネルギー

で車を走らせたり、クリスマスイルミネーションを点灯させることを目指す。

炭谷会長が記念講演した。

朝日新聞(2009年7月3日)

廃棄アルミ再利用 水素社会に転換を

グリーンエネルギー研究会

北陸3県の産学官と市民団体でつくる「北陸グリーンエネルギー研究会」の設立記念講演会が2日、富山市の富山大学・黒田講堂ホールであ



講演する炭谷会長

り、元環境事務次官の炭谷茂会長が講演した。

同研究会は、家庭や企業で捨てられるアルミ系廃棄物の再利用を検討する。紙などに付いているアルミを独自の技術で回収し、カートリッジ化して水素を発生させるシステムを開発することで、「炭素社会」から「水素社会」への転換を目指す。ほかにも、海藻のホンダワラ類からバイオエタノールの製造や、環境教育も行う予定。県内からは、富山大や県、トナミ運輸などが参加する。

炭谷会長は、北陸地方には森林や水など、豊かな資源が

あることに触れたうえで、県西部の地場産業でもあるアルミニウムに注目。「アルミニウムの廃棄物を集めるのは住民パワーが必要だ」と話し、市民の同会への参加を呼びかけた。